

はじめに

今日、子どもたちが自己の生き方や職業について目標を持ち、将来直面するであろう様々な課題に、柔軟かつたくましく対応できるための「生きる力」を身に付け、自立していくためのキャリア教育の推進が強く求められております。

そこで、県教育委員会では、本県の子どもたち一人一人の社会的・職業的自立に向け、郷土に愛着と誇りをもち、チャレンジ精神あふれる人間として育つよう、その基盤となる資質、能力、態度を培うためのキャリア教育を推進することが重要であると考え、小・中・高等学校の12年間を見通した「明日へはばたけあおもりっ子キャリア教育推進事業」に取り組んできました。

本事業では、地域の特性を生かし、小・中・高等学校が連携した効果的な指導方法を確立することを目指して実践研究をすすめるとともに、平成23年度には『青森県教育委員会キャリア教育の指針〈総論編〉』、平成24年度には、児童生徒自身が自らのキャリア発達を振り返ることができる青森県版『キャリアノート“明日へのかけ橋”』を作成しました。そして、事業の最終年度である今年度は、研究指定校における貴重な実践を集めた『青森県教育委員会キャリア教育の指針〈実践編〉』を作成しました。

近年、本県におけるキャリア教育についての理解は広まりつつあるものの、系統的・継続的な実践としてはまだまだ課題が見られます。そこで、子どもたちの発達段階に即した体系的・系統的な授業実践の一助として、〈総論編〉・〈実践編〉及び『キャリアノート』を、「青森県キャリア教育推進の3部作」として御活用ください。

各校におきましては、青森県の未来を担う子どもたちが、自らの生き方や在り方を学び、大きく成長することができるよう、キャリア教育が推進されることを期待いたします。

最後に、本書の作成に当たり、御尽力いただきました研究指定校はじめ作成委員、関係各位の皆様へ、心から御礼申し上げます。

平成26年3月

青森県教育庁

学校教育課長 成田昌造

目 次

はじめに	
本書の利用に当たって	1
1 校内の体制づくり	
（1）組織づくり	2
（2）計画づくり	
①全体計画	7
②年間指導計画	15
③教科・領域	20
（3）研修の充実〈校内での研修〉	25
（4）評価〈アンケートの活用〉	28
2 体験活動の充実	
（1）多様な体験活動	32
・小学校、中学校、高等学校	
（2）職場体験活動・インターンシップ	46
・中学校、高等学校	
3 各教科等におけるキャリア教育の進め方	
（1）各教科等の「学ぶ」を充実させるキャリア教育のアプローチ	52
（2）日常の学校生活を充実させるキャリア教育のアプローチ	65
4 縦の連携	
（1）学年間の連携	69
（2）学校種間の連携	72
（3）キャリアノートの活用	80
5 横の連携	
（1）学校と家庭が連携したキャリア教育	84
（2）学校と地域が連携したキャリア教育	90
（3）学校と地域をつなぐ人材の活用と組織づくり	101
6 資料	
（1）生き方に学ぶ	
千葉大学大学院医学研究院 教授 野田 公俊	108
株式会社ナチュラルアート代表取締役 社長 鈴木 誠	110
（2）キャリア教育プラットフォームについて	112
キャリア教育の指針〈実践編〉作成委員名簿	113

本書の利用に当たって

本書に掲載している実践例は、平成23～25年度にかけて実施した、「明日へはばたけあおもりっ子キャリア教育推進事業」において、研究指定校の小・中・高等学校が、校種間において連携した取組（縦の連携）と、地域や企業等と連携した取組（横の連携）の実践をまとめたものです。

掲載に当たっては、各校の実践の中から、『キャリア教育の指針〈総論編〉』を踏まえて、作成委員の協力を得て、選定し編集しました。特に、第Ⅱ章「キャリア教育の推進方策」の項目に従って編集されていますので、『キャリア教育の指針〈総論編〉』と併せて活用してください。

■キャリア教育について

『キャリア教育の指針〈総論編〉』の序章で、国のキャリア教育の捉え方について述べ、第Ⅰ章では、国の定義を踏まえた「青森県教育委員会が目指すキャリア教育の姿」、第Ⅱ章では「キャリア教育の推進方策」と、本県におけるキャリア教育の基本的方向性を分かりやすく記載しています。この総論編の中で、「本県が目指すキャリア教育の姿」と「キャリア教育の捉え方のポイント」として以下のように述べています。

〈青森県教育委員会が目指すキャリア教育の姿〉

青森県の子どもたち一人一人の社会的・職業的自立に向け、郷土に愛着と誇りを持ち、チャレンジ精神あふれる人間として育つよう、必要な基盤となる資質、能力、態度を培うことを通して、キャリア発達を促す教育。

〈キャリア教育のとらえ方のポイント〉

①キャリア教育は、教育活動全体を通じて取り組むものである。

中教審答申（H23）では、キャリア教育は、「特定の活動や指導方法に限定されるものではなく、様々な教育活動を通して実践される」ものであり、「それぞれの学校段階で行っている教科・科目等の教育活動全体を通じて取り組む」ものとしています。

②「縦」と「横」の連携が必要である。

キャリア教育は、一人一人の生涯にわたるキャリア発達を見通して行われるものであることから、その展開の際には、小・中・高等学校の学校種を超えた「縦の連携」が求められます。

さらに、キャリア教育の展開に必要なのは、社会の様々な教育力です。学校が、家庭や地域住民、企業、NPO等の関係機関と連携・協力すること、すなわち「横の連携」が求められます。

■実践編の活用について

本書は、それぞれの小項目の始めに、その項目における基本的な考え方や進め方、期待される効果等について述べており、その後に、研究指定校による実践例が掲載されています。

記載されている実践は、あくまでも例であり、各校において児童生徒、学校、地域等の実態に合わせて活用する必要があります。